

聖書箇所:ルカの福音書 4章 42~44節

説教題:寂しい所に向かわれるイエス

### 1 寂しい所に出て行かれた

前回、41節のところまで見て参りました。イエスは、カペナウムという町に向かわれます。安息日になれば会堂で教え、また悪霊を追い出しました。でもイエスの働きは、会堂の中だけに限られてはいませんでした。会堂を出られた後、シモンの家に向かわれ、シモンのしゅうとめの病をいやされます。

そしてまたイエスの働きは、安息日の日にだけに限られていたのでもありません。安息日が終わって夜になった時、病を抱えた人たちが大ぜいやって来ましたが、そのひとりひとりをいやされていったのです。

今日はその続きになります。41節の最初に「朝になって」とあります。おそらくイエスは一晩中休まずに働いておられたのでしょう。「朝になって、イエスは寂しい所に出て行かれた」とあると、イエスもだれもない所で一休みしようとしたのだろうか考えるのが普通です。あるいは、そこで父なる神に祈り、交わりをもたれていたと考えます。そのとおりでしょう。

しかしそれだけなのでしょうか。というのは、いつも繰り返しますが、聖書のことばはすべて大切な意味をもって書かれているからです。もし単純にイエスが休息をとるためにこうしたということなら、聖書に書く必要がない。どうしても書かなければならない事情があったので書かれているのです。それはいったいなんでしょう。

### 2 何を祈っておられたのだろうか

聖書は誠に不親切で、イエスがそこで何をしておられたのかひとことも書いておりません。もちろん、書き落としたのではありません。私たちが考えるべきこととして、あえて伏せられているように感じます。聖書を読んでいると、もっと詳しくわかりやすく書いてくればよいのにと思うことがしばしばあります。そもそもイエスが語るみことばが、何か暗号めいていて非常にわかりにくいときがあります。

前回の箇所でもそうでした。イエスは悪霊に対してものをいうのをお許しにならなかったと書かれてあるけれど、どうしてそうしたのか。その理由が書いていない。悪霊がうそを言っていたのならわかります。ところが、悪霊が言っていたことは本当のことです。「あなたこそ神の子です。」4章41節を見ると、悪霊たちはイエスがキリストであることも知っていたために、それが理由でものを言うのをお許しにならなかった。そのように読めます。イエスは、ご自分がだれであるのかを人に知られないようにとあえて隠しておられる、なんだかそんな印象がしてきます。

このような考え方は、全くの見当外れということではありません。イザヤ書の中にこんなみことばがあるのです。やがて来られる救い主キリストのことが預言されている箇所として有名なイザヤ書53章、その中の7節です。「彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く

羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。」

この方が痛めつけられ苦しんだのは、ご自分のためではありません。私たちのそむきの罪のためにです。普通ならどうしますか。「私はあなたがたのために代わって苦しみますから。」ひとことくらいは言いたくなります。何も言わずに、ほかの人の罪のために苦しむことは耐えられない。むしろ、「あんたのせいだ」と愚痴のひとつも言いたくなる。愚痴は言わなくても、少なくとも、自分がしていることの意味を相手に知って欲しいとは思っています。

ところがこの方は、何も言おうとされない。この方は、ご自分のしていることを私たちに隠そうとされている、あえて詳しく知らせないようにしているようです。

それで私たちはどう応答すればよいのでしょうか。「この方がご自分のことを知らせてくれないのなら、私たちにはこの方のことはわかりません。」そう行ってあきらめるのか。いいえ、そうではありません。私たちの側からこの方が神の子キリストであることに気がつくようと、神は待っておられます。では、どのようにしてこの方がキリストであると気がつくのでしょうか。今日の箇所では、42 節が入り口となっています。このところを簡単に読み飛ばしてはなりません。この方がいったいそこで何をしておられたのか考えなければなりません。祈っておられたことは確かです。問題は何を祈っておられたのかです。何も書いていません。考えなさいということです。まるで、考え続けることがイエスに近づく道ですと言っているかのようです。

でも、いきなり考えなさいと言われてもと

まどいます。考えるためのいくつかのヒントが用意されていますので、それを手がかりにしていきます。

### 3 神の国を宣べ伝えるために遣わされた

人々は、いなくなってしまったイエスを探し回り、自分たちから離れないように引き止めようとしていました。それに対しイエスは次のように答えられます。「ほかの町々にも、どうしても神の国の福音を宣べ伝えなければなりません。わたしは、そのために遣わされたのですから。」続く 44 節では、実際にイエスはいろいろな町の会堂をまわり、福音を語っていたと書かれています。

イエスはカペナウムの町に来られ、ひとりひとりの声に耳を傾け、手を置かれ、病をいやしてくださいました。ですから、人々がイエスが行かないようにと引き止めようとする気持ちはよくわかります。

けれどもイエスは、この町に長くどまることができないと答えられます。なぜかイエスは先を急いでおられるご様子なのです。何を急いでおられるのでしょうか。どうしてイエスは人々ともっとゆつくりと交わることができないのでしょうか。

イエスが寂しい所に行かれ、そこで祈っておられたことと、イエスが先を急いでおられること。何も関係がないように思えたのですが、何か関係しています。イエスは先にある何かを見つめておられます。行かなければならない所のことを心に留めておられます。

この方には、特別な事情がありました。ほかの町々にも神の国の福音を宣べ伝えなければならない。イエスはそのように説明されます。

44 節を読むと確かに、イエスはユダヤの

諸会堂に入れ、人々に福音を語っていたことが書かれており、私たちはそこで納得したつもりになります。「そうか、イエスはこのようにして神の国福音を宣べ伝えてくださったのか。このために遣わされてきたのだ。」

でも考えたい。それでイエスの使命はすべて完了したのでしょうか。会堂で福音を語ることが、この方に与えられた使命のすべてだったのですか。

いいえ、神の国の福音を語ることは始まりに過ぎません。神の国の福音は、ただイエスの口から語られて、聞いていた人々の耳に入り、それで終わりなのではないかった。神の国は、もちろんこの方のお語りになるみことばから始まるのですが、それで終わりではない。イエスが語られたみことばは、やがて、実際に目で見えるものとして、私たちに示されていきます。この方が、十字架におかかりになられました。神の国は、ことばで宣べ伝えられたばかりではなく、十字架につけられたイエスのみからだをとおして最終的に私たちに示されました。

イエスがなぜ先を急いでおられたのか。どうしてカペナウムにとどまることができなかったのか。これでおわかりだと思います。この方は、いつまでも地上にとどまるわけにはいかないのです。この方は、人々から引き離されるために遣わされて来たときえ言うことができるでしょう。罪人となられて、十字架につるされるために遣わされてきました。神の国の福音を、十字架において示すために遣わされてきました。

#### 4 イエスの祈り

最後に考えます。イエスは寂しい所に行か

れ、そこで何を祈られたのでしょうか。

人々はイエスを捜し回り、自分たちから離れていかないようにと願いました。イエスはどうだったのでしょうか。カペナウムの町ではやるべきことは全部やり終わったので、もうここにはいる必要がない。だからほかの町に行きます。そんな事務的なことだったのでしょうか。

ヨハネの福音書にこうあります。「神は実にそのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じるものが、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネ3章16節)

人々は「行かないでください」と願いました。イエスはどうだったのでしょうか。実はイエスもそこにとどまっていたかたのではありませんか。イエスは世の人々を愛しています。カペナウムの人々を愛しておられます。愛しているので、人々と一緒に笑い、泣き、食事をし、眠り、生活をしたい。それがイエスの心の中にあることです。

けれどももし、カペナウムにそのままとどまっていたならどうなりますか。十字架はいつまでも先延ばしにされてしまいます。しかしそれでは、イエスが遣わされてきた意味がなくなるのです。

だからこの方は祈ります。イエスは戦っておられるのですか。私たちが愛するがゆえに、本当はいつまでも一緒にいたい。けれども、十字架という目的地に先を急がなければならない。その二つの狭間で、イエスは揺れ動きます。つらい思いをされていた。葛藤していた。そんなるタイ思いを人に知られたくありません。だから寂しい所に向かわれ、あえて人々の所から離れます。後ろ髪を引かれるような思いで、祈らされていきます。

神である方が、二つの思いの中で葛藤されると聞いて驚くでしょうか。なぜ葛藤されるのですか。この方が私たちのことを考えられないほどの深さで徹底的に愛して下さるからではないですか。

聖書には、ひとこともそんなことは書いていません。ただ、イエスは寂しい所に出て行かれたとしか書いていない。イエスがそこまでつらい思いをしておられたことを、この方は私たちに知らせようとはなさいません。隠しておられます。隠しておられるけれど、聖書は豊かにヒントを与えています。

だから、立ち止まり、静まり、考えたいと思うのです。イエスが何を祈っておられたのか。引き裂かれるような悲しみがイエスの心に満ちていたことを思い起こしたいと願います。